



羅針盤

飯塚 一
Hajime Iizuka

廣仁会 札幌乾癬研究所所長・旭川医科大学名誉教授



乾癬の多彩な側面と全身病態からみた皮膚疾患

今回、光栄なことに「飯塚一セレクション」として特集号を一冊、出ささせていただき運びとなった。とにかく一人で書けという、大原國章編集委員長と、同期の塩原哲夫教授の厳命でもあり、この手の原稿は山ほど書いてきたつもりなので軽い気持ちで引き受けたのだが、やってみると、一冊まとめあげるのは思った以上に大変であった。過去にセレクションを書かれた諸先生については、そのできばえと払われた労力に、心から尊敬せざるを得ない。

先行のセレクションは、すべて素晴らしい教本であり読んでいて考えさせられるものばかりである。このシリーズはおそらく今後も続いていくのであろうが、筆者に対する重圧は、後で取り組む人ほど高まっていくであろうことが予想され、これは確かに同情に値する。何より驚いたのは、2014年12月号の「宮地良樹セレクション」である。筆者より後から書き始めたはずなのだが、あっという間に作り上げてしまい、こちらはなんだかスポーツカーに追い抜かれた一般車両のような心境になった。彼の場合、締め切りというプレッシャーは存在しないようであり、さすが出版もプロフェSSIONナルだと感心している。

筆者の皮膚科における専門領域は乾癬である。これは、筆者にとって恩師にあたる北海道大学名誉教授の三浦祐晶先生、同大河原章先生以来の北大の伝統である。マイアミ留学時代の4年、北大の4年、そして旭川医科大学での講師4年と教授28年を通じて、乾癬は自分にとって最大の、そして結果的に生涯のテーマであり続け

たことになる。したがって本号では、乾癬の多彩な側面と全身病態からみた皮膚疾患という形でまとめさせていただいた。なお、後者には精神的な要因が関与するものも含めている。

乾癬自体、とくにメタボリック症候群との関連で、全身疾患としての側面があるのだが、近年の生物学的製剤の時代においては、その副作用の観点からも、皮膚科医には全身をみる素養が必須となりつつある。同時に、皮膚疾患と心も含めた全身病態との関連は、これからも皮膚科の診療において、もっとも重要なテーマであり続けると確信している。これらは他科との緊密な連携のもとに成立する作業であり、たがいの専門性を尊重し、知識を補い合いながら患者に向き合っていく姿勢が求められる。要は特徴的な皮疹をみたとき、その陰に存在する全身疾患ないし病態をどのように捉え、見つけ出していかかが皮膚科診療の基本であり、診察にあたり皮膚だけに限定してみないということである。

皮膚科医は形をみる専門家といってもよいであろうが、重要なことは、形の裏にあるものを理解していかうとする姿勢であろうと信じている。

* * *

なお、本号に提示された多くの貴重な症例は、旭川医科大学と関連病院の教室員、そして筆者にとっては先輩、同僚にあたる諸先生が発見し検討を加えたもので、筆者は、それに若干の考察を加えたにすぎない。ここに記して感謝する。